

HTEC

Honda Technical College kansai

TIMES

学校法人ホンダ学園
ホンダ テクニカル カレッジ 関西

〒589-0012 大阪府大阪狭山市東くみの木2丁目1937番地の1
TEL:072-366-9011 FAX:072-360-2230

発行責任者
校長 村上 洋

ホームページ・ケータイ サイト
http://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/

QRコード対応
ケータイで
簡単アクセス!



本田技研工業(株)および(株)本田技術研究所社長の伊東孝紳さん(写真右) 学校を見学する伊東社長と自動車研究開発科の学生たち(写真左)

伊東社長に活動報告をする二輪整備同好会のメンバー(写真右)



Honda 伊東社長が特別講話

～環境技術への取り組みについて～

ようやく関西校へ来ることが出来ました。今日は世界の自動車産業を取巻く問題とそれに対するホンダの取り組みをお話しします。

問題のつは、アメリカのサブプライムローンに起因する経済不況です。これによって世界の自動車会社の売上が2〜3割減少し利益が出ない状況です。しかしホンダは二輪がアジアとブラジルで凄く好調で、この経済不況の中でも黒字を維持しています。本当に二輪をやつて良かったと思えます。今後とも経済不況に左右されない基盤を築くことで乗り越えていくつもりです。

経済不況も問題の一つですが、今、自動車だけではなく産業界全体での深刻な問題は、CO2の増加による地球温暖化問題です。このままでは今世紀末には人間が住めなくなるとも言われています。これを防ぐために世界中の自動車の燃費を2050年までに今の倍以上の良いものにならなければなりません。

ホンダではこの問題に対し、排出されるのは水だけの究極のクリーンカーとして水



素燃料電池車を昨年販売開始しました。しかし水素燃料電池車には水素ステーションのインフラという課題があり、普及するには20〜30年は必要です。

汎用事業では家庭用発電機やソーラーパネルを販売していますので、家庭内で発電できる、ガソリンを使わない、電気を買わない炭素フリーのモビリティ社会を創つていこうと考えています。そしてホンダは未来永劫に存在を期待される企業になつていきたいと考えています。

皆さんが自動車業界の中心として働くには、こうした「電気技術」が間違いなく主流になります。だから皆さんには、今から電気勉強を一生懸命していただきたいと思っています。(要約)

トピックス

12月16日(火)、伊東孝紳社長が毎年開催しているホンダのトピックスに本校が来校されました。伊東社長は現在、本田技研工業(株)と(株)本田技術研究所の社長を兼任されています。講話では世界の自動車産業を取巻く問題と、ホンダの環境技術と取り組みをテーマにご講話いただきました。

伊東社長に“ココ”が聞きたい!



自動車整備科 1年生
三好 愛さん

Q: 伊東社長の今の夢は何ですか?

A: 仕事に直結しますが、環境対応型の面白い車をつくることですね。やっぱり車は面白くないといけなから、燃費がいいだけではなく、パワーがあつてよく走る運動していてスポーティーな面白い車をつくりたいです。これは技術者として会社として非常にチャレンジングだし、他社よりも早く実現してお客様に喜んでもらいたいですね。



自動車研究開発科 1年生
植山 良くん

Q: F-1の再開はありますか?

A: チャレンジは必ずどこかです。F-1というのは技術だけでなく、人と人との繋がりが非常に大切で、人と人が信頼しあえてモチベーション高く、チーム全体が一つの目標に向かっていけるのが最後の成果を引き出すコツだと思っています。第三期のホンダチームはチームの一体感が弱かったので、次はこうしたことをよく整理してチャレンジしたいと思っています。

自動車研究開発科「アメリカ大会選考会」

2年生と3年生が競争!

自動車研究開発科2年生が、12月16日〜22日にかけてアメリカ大会選考会を実施しました。

今年の選考会は2年生が1チームのため、アメリカ大会出場マシンを決定するのではなく、3年生の代表チームに胸を借りて競い合うことで、2年生のマシンの性能や問題点などを探ることが目的となりました。

選考会はアメリカ大会と同じくデザイン、コスト、プレゼンテーション、アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、エンデュランス、燃費の8競技の合計得点で競いました。

なかでも開発、製造関係の企業の方々が観戦に来られた12月18日のエ

ンデュランス(22km耐久)では、両チームともマシンの限界性能を発揮し思い切りの良い走りを見せ、白熱のバトルを展開しました。

しかし、快調に1位を走行していた2年生のチーム「Beat Racing」でしたが、エンデュランスのラスト1周でまさかのマシントラブルのためリタイア。このため得点が得られず3年生のチーム「WR」が選考会を制しました。

アメリカ大会へマシンの船積みまで残すところ約4ヶ月。2年生はこの期間で選考会で見つけた様々な問題点をクリアし性能向上を目指します。



2年生のチーム「Beat Racing」。4気筒、「Powerful & Compact」がコンセプト



3年生のチーム「WR」。単気筒、150kgの軽量マシン



エンデュランス後、企業の方々と意見交流



ホンダファーストエイドではAEDの使用法や心臓蘇生法を学ぶ

救急車が着くまでのわずかな時間が、けが人の生死を分ける重要な時間であり、ファーストエイドが最も重要なカギとなります。

本校では、在学中に知識だけでなく、体で覚えるための講習受講を行うことで、万がの際、応急手当の対応ができることを目指しています。同時に、チャイルドシートの取付講習も開催し、正しく安全に取付する方法も学んでいます。

1月18日〜20日の3日間、鈴鹿サーキット交通教育センターから3名のインストラクターを迎え、自動車整備科と一級自動車整備研究科の1年生を対象にホンダファーストエイドとチャイルドシートの取付講習を実施しました。

ホンダファーストエイドとは、ホンダが社会貢献活動として広めているファーストエイド(応急手当)です。事故現場では119番から



インストラクターの指導のもとチャイルドシートの取付を学ぶ

ホンダファーストエイド&チャイルドシート取付講習

安全運転講話 元ホンダワークスライダー宮城光さん



レースの話を取り交ぜながらの安全運転講話



宮城さん自身の体験から話が多く分かりやすい

1月28日、ホンダから宮城光さんにお越しいただき、1年生を対象に安全運転講話を開催しました。

宮城光さんは元ホンダワークス二輪ライダーで、全日本選手権および全米選手権でチャンピオンの獲得経験を持ち、四輪レースでもその才能を発揮しています。現在は、テレビのMOTOGP中継でレース解説者を務めるほか、ホンダコレクションホール内に所蔵している車両の動作確認テストを行うなど多方面で活躍をされています。

今回の安全運転講話は、学生たちにとって興味のあるレースの話を取り交ぜながら、安全運転のテクニックやマナーについてお話いただきました。

宮城さん自身の体験を踏まえての講話は、大変わかりやすく、自動車業界を目指す学生たちにとって安全運転の意識を高める良い機会になりました。